

## 在り方生き方に関する教育と言葉による生徒指導

Teaching About How to Live and Guiding Students Using Words

岩崎 功

Isao IWASAKI

(平成26年10月7日受理)

本学の卒業生が高等学校の教師になったとき、生徒指導の一助となるように、学習指導要領、生きる力等についての概要をまとめ、在り方生き方教育の成果である高校生の「大切な言葉」に関する調査を行った。教師になると教科指導、生徒指導、校務分掌等の実務に追われて、学習指導要領などの理論の研修には中々手が回らない。ここで示した学習指導要領とその理念等についての内容は、教師として身につけておいて欲しい最小限の教養である。また、在り方生き方教育で培われた生きる力を日常生活面で活かす援助が生徒指導の働きである。その指導の多くは言葉を介して行われるから、教師の言葉が生徒の心にどの程度届いたかが生徒指導の効果を左右する。生徒の心に残っている「大切な言葉」を、生徒指導を含めた在り方生き方教育の成果の一つと考え、その実態を把握するため本学の学生を対象としたアンケート調査を実施した。その結果、「大切な言葉」を知った場が、「学校」という割合は56%、「家族」は約30%であった。すなわち2分の1を超える学生が「学校」から、30%が「家族」から教えてもらったことになる。「家族」も無視できない比率を示しており、学校外の教育の場面と学校が連携・協力していくことの重要性が垣間みえる結果でもある。

### 1. はじめに

本稿は、本学の卒業生が高等学校の教師になったとき、生徒指導の際の一助となるように、学習指導要領、生きる力、在り方生き方に関する教育等についての概要や、高校生のもつ言葉の実態などについてまとめたものである。その実態把握のため、本学の学生を通して、中・高生時代にどんな言葉と、どこで出会い、どんなときその言葉が力となっているのかアンケート調査した。

教職課程の「生徒指導」の授業で気になっていることがある。テキストに従って授業を受けて半期を終了すれば、受講生の生徒指導に関する知識はかなり身につく。定期試験でも理論的な知識に関する面では相当良い成績をとる。しかし、教員になって生きた生徒を目の前にしたとき、それらの理論的な知識をどの程度実際の生徒指導に活かすことができるのだろうか。理論の裏付けなしでは独善的な指導になるから理論的知識の学習は不可欠であるが、生徒指導の現実的な能力はOJTによる力量形成の面が強い。反抗心旺盛な生徒を納得させて自覚に導くための現実的な力である。腕に自信のある教師に頼りがちな時代もあったが、今はすべての教師が行う説得と納得の生徒指導である。

昔先生に叱られた時のこと、先生の怒りの表情や教訓的な一言を思い浮かべる人は多い。

「馬鹿野郎！」の一喝で目を覚ますこともあれば、「人間万事塞翁が馬というだろう。…」と愛情のこもった優しい一言に癒された人もいよう。生徒を個別指導する時、生徒指導の上手い教師にはその「場」の雰囲気を読み、その「場」に相応しい一言を投げかける人が多い。教諭するために時間をかけた説明も必要であるが、経験に裏打ちされた「最適な一言」、それが生徒指導における有力な道具となる。ただし、それには当該教師が生徒から相当な信頼を得ていることが前提条件ではある。問題行動への対応だけが生徒指導ではないが、集団指導の場合も含め、教師の発する言葉は重大である。そこでこのような言葉が、周囲の人達からのアドバイスも含め、高校生の心にどれだけ「大切な言葉」として残っているのか調べることにした。

いいかえれば、本学の学生たちが、高等学校時代までに受けた在り方生き方に関する教育（小・中学校では道徳教育）を通して、小・中・高等学校の学習指導要領の理念である生きる力を、どのように身につけ、また、どの程度身につけているかを「大切な言葉」をてがかりに検討したものである。

## 2. 生きる力の育成、在り方生き方に関する教育の目指すもの

生きる力という言葉は、日本語としてもごく普通に日常よく使われるものであるが、以下、本稿では、学習指導要領の理念を表す用語として用いる。文部科学省は、ホームページの中で、「『生きる力』＝知・徳・体のバランスのとれた力」<sup>(1)</sup>と説明している。

### (1) 学習指導要領にみる「生きる力」

学習指導要領とは、学校における教育課程<sup>(2)</sup>を編成するときの基準となるもので、文部科学大臣によって告示される。文部科学省では、「全国のどの地域で教育を受けても、一定の水準の教育を受けられるようにするため、文部科学省では、学校教育法等に基づき、各学校で教育課程（カリキュラム）を編成する際の基準を定めています。これを『学習指導要領』といいます。」<sup>(3)</sup>と説明している。学習指導要領によって、日本の初等中等教育における教育の機会均等が保障され、適切な教育内容が確保され、教育水準の維持向上が図られている。学習指導要領の内容は、高等学校の場合、総則、各教科、総合的な学習の時間、特別活動となっていて、教科書や学校の授業時間割もこれに基づいて作られている。授業の元締的存在である。

なお、学習指導要領は、戦後試案として作られたが、現在のような大臣告示の形になったのは、昭和33年の改訂のときからであり、それ以来、ほぼ10年ごとに改訂されてきている。現行の学習指導要領は、平成21年3月改訂され、平成25年度から施行されている。（移行措置により、一部前倒し実施の特例がある。）

生きる力が学習指導要領に登場したのは、平成11年3月の改訂のときである。その直前の平成8年7月の中央教育審議会<sup>(4)</sup>第一次答申<sup>(5)</sup>は、生きる力について次のように述べている。

我々はこれからの子供たちに必要となるのは、いかに社会が変化しようと、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力であり、また、自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や

感動する心など、豊かな人間性であると考えた。たくましく生きるための健康や体力が不可欠であることは言うまでもない。我々は、こうした資質や能力を、変化の激しいこれからの社会を「生きる力」と称することとし、これらをバランスよくはぐくんでいくことが重要であると考えた。

この答申を受けた平成11年3月の改訂で、高等学校学習指導要領（以下、学習指導要領という。）に初めて「生きる力」という言葉が登場し、その育成が学習指導要領の理念となった。（小・中学校の学習指導要領も同様の理念である。）平成21年3月改訂の現行学習指導要領においても、「今回の改訂においては、生きる力という理念は、知識基盤社会の時代においてますます重要となっていることから、これを継承し、生きる力を支える確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和のとれた育成を重視している。」<sup>(6)</sup> と、この理念は引き継がれている。文部科学省によれば、確かな学力とは「基礎的な知識・技能を習得し、それらを活用して、自ら考え、判断し、表現することにより、様々な問題に積極的に対応し、解決する力」、豊かな心（豊かな人間性）とは「自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する人間性」を表し、健やかな体（健康・体力）とは「たくましく生きるための健康や体力」<sup>(1)</sup> のことである。

## (2) 在り方生き方に関する教育

「在り方生き方」という言葉は学習指導要領のキーワードの一つであり、高等学校教育においては生きる力を支える豊かな心を育成するための道徳教育を示している。この言葉が登場したのは、平成元年3月改訂の学習指導要領であり、総則第1款2に次のように記されている。

学校における道徳教育は、生徒が自己探求と自己実現に努め国家・社会の一員としての自覚に基づき行為しうる発達段階にあることを考慮し人間としての在り方生き方に関する教育を学校の教育活動全体を通して行うことにより、その充実を図るものとし、各教科に関する科目及び特別活動のそれぞれの特質に応じて適切な指導を行わなければならない。（下線は筆者）

なお、現行の学習指導要領でも、「特別活動」の文言が「総合的学習の時間及び特別活動」へと変わってはいるが、これと同様な文章が総則第1款2にある。

人間としての在り方生き方に関する教育（以下、「在り方生き方教育」という。）は、道徳教育の柱として、高等学校では公民科や特別活動のホームルーム活動を中心に行われている。小・中学校では道徳の時間の設置が学習指導要領上義務づけられているが、高等学校には設けられてない。そのため高等学校では学校の教育活動全体を通じて、在り方生き方教育として道徳教育が行われている。在り方生き方教育の具体的内容は、小・中学校の道徳の内容のように学習指導要領上示されていないが、中央教育審議会答申<sup>(7)</sup>では、最低限の規範意識、人間関係、生き方、法やルール、生活習慣、マナーなどが挙げられている。

### 3. 学生の「大切な言葉」の調査からみたり方生き方教育の成果

#### (1) 学生の「大切な言葉」を手がかりとした調査

本稿では、生きる力を支える3つの柱、「確かな知性」、「豊かな心」、「健やかな体」のうちの「豊かな心」の部分、つまり在り方生き方教育、の評価について、言葉との関連性を調査した。

道徳教育は、幼稚園、小・中学校のそれぞれ学校段階ごとにその重点が明示され、一貫して取り組まれている。中学校の場合には、「道徳の時間においては、思春期の特質を考慮し、社会とのかかわりを踏まえ、人間としての生き方や社会とのかかわりを見つめさせる指導を充実する観点から、道徳的価値に裏打ちされた人間としての生き方について自覚を深める指導を重視する。その際、法やきまり、社会とのかかわりなどに目を向ける、人物から生き方や人生訓を学んだり自分のテーマもって考え議論したりするなど、多様な学習を促進する。」<sup>(8)</sup> ことになっていて、人生訓の学習も含まれている。巻末の資料2は、学習指導要領で示されている小学校と中学校の道徳教育の内容である。

在り方生き方教育の成果はもちろん目に見えるものではないが、一定の効果があるならば何らかの形で生徒の体（頭脳、心）中に、証として残っているはずである。その証の一つが、ふとした拍子に口をついて出る諺や格言など、人生の役に立つ言葉にあるのではないかと考えた。人は一言で甦ることもある。上司や先輩のアドバイスや両親の叱責・激励から勇気を得たり、慰められたりしたことは誰もが経験している。中・高校生や大学生も大人に比べて社会的経験は少ないけれども、学校生活でも相応の苦労があるだろうから、激励や慰めの一言のありがたみを感じているはずである。また、人は言葉で物事を考える。むしろ考えるための唯一の手段が言葉であるともいえる。身につけている語彙が多ければそれだけ深く多様な考え方ができ、生きる知恵の豊かさにもつながるだろう。心に残る人生に役に立つ言葉は、在り方生き方教育の成果の一つであるといえる。このようなことから、人生訓の学習や在り方生き方教育の成果として、学生の「大切な言葉」との関係性を調査した。

#### (2) 調査の概要

本学の学生を対象に、「皆さんが大切にしている言葉」についてのアンケート調査を行った。アンケート用紙では「『皆さんが大切にしている言葉』とは、皆さんが好きな『ことわざや格言』、『身近な人が口癖にしている、皆さんもいいなとかなるほどと思っている言葉』など、皆さんが生きていく上で何らかの影響を与えてくれる、言葉とします。」と定義した。（すでに使っているが、「皆さんが大切にしている言葉」を「大切な言葉」という。）

アンケートの内容は、資料1に示すように「1 皆さんが大切にしている言葉」、「2 その言葉は誰のものか、誰に教えてもらったのか、どこで知ったか」、「3 その言葉はどんなとき（場面）であなたにとって力になっているか」の3項目である。学生がどんな言葉を生きる指針とし、それをどこで身に付け、どんな場面でそれを生きる上での力としているのか調査した。その言葉が「ふとした拍子に口をついて出る言葉」であることを示すため、アンケート記入時には直感的に短時間で答えるように指示した。

回答した学生は、教職課程に在籍する学生と一般学生を含めた125人である。

資料 1

「言葉」に関するアンケート調査

平成 26 年 7 月

「皆さんが大切にしている言葉」とは、皆さんが好きな「ことわざや格言」、「身近な人が口癖にしている、皆さんもいいなとかなるほど思っている言葉」など、皆さんが生きていく上で何らかの影響を与えてくれる言葉、とします。

1 「皆さんが大切にしている言葉」を書いてください。(1つ以上)

① .....

② .....

2 1で書いた言葉は、誰の言葉か、誰に教えてもらいましたか、あるいは何で知りましたか。(いくつ〇をつけてもかまいません。)

ア 父親      イ 母親      ウ 祖父・祖母      エ おじ・おば

オ 兄弟・姉妹      カ 友人 ( 小、中、高 )

キ 学校の先生 ⇒

a 小学校      b 中学校      c 高校

d HR担任      e 部活動の顧問      f その他 (                      )

ク 学校の授業 ⇒ ( 小、中、高 ) 学校の (                      ) の授業

ケ 書名または作家名 (                      )

コ その他 (                      )

3 1で答えた言葉は、どんなとき(場面で)あなたにとって力になっていますか。

.....  
.....

(                      ) 年生      性別   1 男      2 女

巻末の資料3は、アンケート項目1「大切な言葉」とアンケート項目3「それが力になっている場面」の一覧をアンケート番号順に表にしたものである。(アンケート番号は整理の都合上つけたもの。) アンケートに答えた125人の学生すべてが項目1の「大切な言葉」に回答した。また、よく知られた諺や格言を回答したものが45人あり、全体のちょうど36%に当たる。3人1人以上が諺や格言を挙げていることになる。

### (3) 考察

アンケート結果を考察するために、資料として次の2つの表と巻末の資料3を作成した。

- ① 表1「大切な言葉」の分類(基準は中学校の道徳の内容、巻末の資料2による。)
- ② 表2「大切な言葉」の分類と「その言葉と出会った人または場所」との関係

#### ① 最多は「高い目標、やり抜く強い意志」(表1について)

表1は、「大切な言葉」を、中学校学習指導要領に示された4つの道徳の内容を基準として分類したものである。諺、格言の分類には、定式化された方法はない。高等学校の在り方生き方教育については、小・中学校の道徳教育のように具体的内容が示されていないので、中学校の道徳の内容を分類の基準とした。小・中学校における道徳の内容の学年段階・学校段階の一覧表を巻末の資料2に掲げた。

「大切な言葉」を、

- 1「主として自分自身に関すること」、
- 2「主として他人とのかかわりに関すること」、
- 3「主として自然や崇高なものとかかわりに関すること」、
- 4「主として集団や社会とかかわりに関すること」

の4つの大区分とそれぞれの小区分に分類した。(以下、場合によっては「主として自分自身に関すること」を大区分1と表す。) 小区分のうちのそれぞれ最後のその他は、筆者が加えたものである。

大区分の分類結果は次の通りである。

1「主として自分自身に関すること」	68.8%
2「主として他人とのかかわりに関すること」	24.0%
3「主として自然や崇高なものとかかわりに関すること」	1.6%
4「主として集団や社会とかかわりに関すること」	5.6%

4つの大区分は、内容の差が明確であるから、「大切な言葉」をこの4つに分類することは難しくはなかった。ほぼ7割が大区分1の「自分自身」に関する言葉であった。これに、大区分2の「他人とのかかわり」に関するもの24.0%、と合わせると、9割を超える学生が、自分と他人とのかかわり、つまり自分を含めた人間関係に関する言葉を挙げている。

小区分への分類は、複数の小区分に該当することが考えられ分類に迷う場合もあったが、数字の処理上「大切な言葉」一つを一つの小区分に当てはめた。例えば、「少年よ大志を抱け」は、1-(2)(大区分1、小区分(2)を表す。以下同じ。)、1-(4)、1-(5)のいずれにも分類可能である。ここでは、「理想に向かって挑戦しなさい。それが自分の人生を切り拓いていくことにつながる」と解釈し、下線部が1-(4)の文言と一致しているから、1-(4)に分類した。「笑う門には福来る」について、岩波ことわざ辞典は「苦難な状況にあっ

表1 「大切な言葉」の分類（中学校の「道徳の内容」を基準とした。）

大区分	小区分	内 容	人数	小区分率	大区分率
1 主として 自分自身 に 関する こと	(1)	望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け調和のある生活をする。	3	3.5	68.8
	(2)	より高い目標を目指し、希望と勇気をもって奮発にやり抜く強い意志をもつ。	45	52.3	
	(3)	自律の精神を重んじ、自主的に考え、誠実に実行してその結果に責任をもつ。	1	1.2	
	(4)	真理を愛し、真実を求め、理想の実現を目指して自己の人生を切り拓いていく。	2	2.3	
	(5)	自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求する。	13	15.1	
	(6)	その他	22	25.6	
		計	86	100.0	
2 主として 他人 との かわり に 関する こと	(1)	礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとる。	6	20.0	24.0
	(2)	温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し思いやりのある心をもつ。	6	20.0	
	(3)	友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合う。	1	3.3	
	(4)	男女は、互いに異性についての正しい理解を深め、相手の人格を尊重する。	0	0.0	
	(5)	それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものを見方や考え方があつたことを理解して、寛容の心をもち謙虚に学ぶ。	1	3.3	
	(6)	多くの人々の善意や支えにより、日々の生活や現在の自分があることを感謝し、それにこたえる。	15	50.0	
	(7)	その他	1	3.3	
		計	30	100.0	
3 主として 自然 や 崇高 な 事 物 に 関 する こと	(1)	生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する。		0.0	1.6
	(2)	自然を愛護し、美しいものに感動する豊かな心をもち、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深める。		0.0	
	(3)	人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じて、人間として生きること喜びを見いだすように努める。	1	50.0	
	(4)	その他	1	50.0	
		計	2	100.0	
4 主として 集団 や 社会 に 関 する こと	(1)	法やまじりの意義を理解し、遵守するとともに、自他の権利を重んじ義務を確実に果たして、社会秩序と規律を高めるように努力する。		0.0	5.6
	(2)	公徳心及び社会連帯の自覚を高め、よりよい社会の実現に努める。	3	42.9	
	(3)	正義を重んじ、だれに対しても公正、公平にし、差別や偏見のない社会の実現に努める。	1	14.3	
	(4)	自己が属する様々な集団の意義についての理解を深め、役割と責任を自覚し集団生活の向上に努める。		0.0	
	(5)	勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努める。		0.0	
	(6)	父母、祖父母に敬愛の念を深め、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築く。		0.0	
	(7)	学級や学校の一員としての自覚をもち、教師や学校の人々に経営の念を深め、協力してよりよい校風を樹立する。		0.0	
	(8)	地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、社会に尽くした先人や高齢者に敬愛と感謝の念を深め、郷土の発展に努める。		0.0	
	(9)	日本人としての自覚をもって国を愛し、国家の発展に努めるとともに、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献する。		0.0	
	(10)	世界の中の日本人としての自覚をもち、国際的視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献する。	1	14.3	
	(11)	その他	2	28.6	
		計	7	100.0	
		合計	125		100.0

でも希望をもって頑張っていれば、幸せをもたらすことができること」と解説している。1-⑴、1-⑸のいずれかに該当する。「苦難な状況のときにも笑顔を忘れないように自己を見つめ、自己の向上を図る」という意味にくみ取って1-⑸とした。「果報は寝て待て」について、原意は、「幸福は人の力で手に入れられるものではないから、あせらず、時機を待つしかない。」である。「時機を待つ」を積極的に解釈すれば1-⑵、1-⑸と見なすことも可能である。しかし、アンケート項目3「どんなとき（場面で）あなたにとって力になっていますか」の記述から判断すると、積極的な解釈はできなかったので、1-⑹とした。1-⑴から1-⑸の文言の根底にはいずれも積極性があると考えて、積極性が感じられないものは1-⑹に分類した。

大区分1「主として自分自身に関すること」は86人であった。そのうち45人（大区分の中での比率は52.3%）の「大切な言葉」は小区分⑵「より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ。」に分類された。45人という数字は、全体125人の中では36%を示している。3人に1人以上が、自分に努力を促す言葉、或いは自己を激励する言葉を「大切な言葉」としている。比較する資料がないのでこの数字が大きい小さいかは判断することはできないが、本学の学生は、3分の1以上が自らに“努力”を促し、或いは自己を“激励”する言葉を持っている。

大区分2「主として他人にとのかかわりに関すること」への該当する言葉を挙げた学生は30人であった。全体の中での比率は24.0%である。そのうち小区分⑹の感謝の言葉を挙げた学生が15人（大区分の中での比率は50%）で最多である。次に小区分⑴「礼儀」と⑵「思いやり」がそれぞれ6人ずつで続いている。大区分2の他人にとのかかわりに関する「大切な言葉」の分類では、感謝、礼儀、思いやりの3つが主であることがわかる。ただ、小区分⑶の友情の関係の言葉が1人、⑷の男女の人格尊重に関する言葉が0人であった。大区分3は、⑶と⑷が一人ずつ計2人、大区分4については、⑵が3人、⑶が1人、⑩が1人、⑪2人の計7人であった。

## ②『『家族』からの言葉が3割』（表2について）

表2は、「大切な言葉」の分類と、アンケート項目2の「(その大切な言葉は) 誰の言葉か、誰に教えてもらいましたか、あるいは何で知りましたか」との関係を集計したものである。項目2を「家族」、「友人」、「学校」、「書籍または作家とその他」(以下、「本・その他」という。)の4つにまとめた。ア父親、イ母親、ウ祖父母、エおじ・おば、オ兄弟姉妹を「家族」とし、同様にキとクを「学校」とし、「ケ、コ」を「本・その他」とした。この表の見方については、例えば、アンケート番号34の学生の「大切な言葉」は「継続は力なり」であり、その言葉を教えたのは父親、母親、高校の先生と答えている。「継続は力なり」は1-⑵に該当するから、この学生の言葉は、1-⑵の列の家族の欄と学校の欄の2つにカウントされている。つまり、複数回答となっている。「その言葉と出会った人また場所」の集計は、「家族」37人、「友人」21人、「学校」49人、「本・その他」38人となり、合計すると145人となるが、125人を分母とする比率でみると、それぞれ29.6%、16.8%、39.2%、30.4%となる。「友人」を「学校」に含めると、「大切な言葉」を知ったのが「学校」という割合は、56%になり、「家族」は約30%である。すなわち、2分の1を超える学生が「学校」から、30%が「家族」から教えてもらったことになる。「家族」からこのような言葉を教えてもらうのは、実際には「家庭」からが主と思われるが、そのような





学校外の教育の場面と学校が連携・協力していくことの重要性が垣間みえる結果でもある。

①と②の考察から、125人の学生の「大切な言葉」について明らかになった傾向は次の通りである。

ア 大区分1の「自分自身」に関する言葉を挙げたものが全体の7割に上った。その中で、最も多いものが1-(2)「より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ。」に該当する言葉であり、52.3%を占める。

イ 大区分2の「他人とのかかわり」に関する言葉を挙げたものが、全体の24%、4人に1人の割合となっている。その中でちょうど半数の学生が2-(6)「多くの人々の善意や支えにより、日々の生活や現在の自分があることを感謝し、それにこたえる。」に該当する言葉を挙げている。他人とのかかわりに関する言葉では感謝の言葉を挙げた学生が最も多い。

ウ 「その言葉と出会った人または場所」との関係では、多い方から「学校」、「本・その他」、「家族」、「友人」となっている。「家族」37人は全体の30%に当たる。「友人」を「学校」に含めると、70人となり、同様に全体の56%に当たり、半数を超える学生が「学校」で「大切な言葉」と出会っていることになる。

#### 4. おわりに

教職課程の授業のとき、私の話を聞いていたある学生が「それって、『天網恢恢疎にして…』って言うんじゃないの?」と、隣の学生に話かける小声が私にも届いた。私は聞き流しそうになったが、中々気の利いた言葉を知っているのだな、と感心すると同時に、このようにふとした拍子に自分を激励したり、抑制したりする言葉が口をついて出ることが生きる力につながるのではないかと感じた。悪事に手を染めようとする一瞬、一つの言葉で正気に戻る。我々の先達はこのようなことを数多く経験し、格言として後世に残した。知っていて活用すれば人生に役立つ、諺や格言とはこのようなものであろう。やや誇張して言えば、知っているか否かで人生が変わる可能性がある。したがって、人生に役立つ言葉を身につけることは、生きる力の育成にもつながっている。在り方生き方教育や中学校の道徳で人生訓を学ぶ理由もここにある。アンケートに協力してくれた125人の本学の学生も全員が「大切な言葉」を持っていた。その半数以上が「大切な言葉」と出会ったのは「学校」と回答している。在り方生き方教育の成果の一つと考えられる。諺、格言や名言が本当に役立つのは社会人になってからであるが、そのために大学時代に勉学に励み、更に自分の心に共鳴する「大切な言葉」と出会うことを願っている。

また、一方、在り方生き方教育は、主として生徒指導を通じて行われる。生徒指導のベテランは、生徒への話し方も接し方も老練である。その“技術”は一種の暗黙知といえる。そして、押しなべて言葉の使い方が巧みである。巧みという誤解される虞もあるが、もちろん、口先だけの「巧言令色」とは全く無縁の巧みさであり、誠実さに溢れ、生徒への愛情に裏付けられた説得力に富んだものである。教師を目指す教職課程の学生も、教科の学習指導力に加え、生徒指導力にも優れた教師になって欲しい。そのためには、生徒指導の理論ばかりの学習だけではなく、生徒の琴線に触れる「大切な言葉」を与えることができるように、言葉の勉強を生涯行っていくことも不可欠である。





37	ありがたう。ごめんさない	
38	一生懸命。笑う門には福来る	
39	自分は自分のものであって、自分に対して義務と責任がある。義務が馬	ストレスなどを抱えてデモンションが下がった時に力になる。
40	過去はふり返らない	決断をしなげなければならない時①の言葉を基準にしている。
41	けじめをつける	物事に失敗してもよくよくせず次の事を考えられるようになった。(家で)
42	無駄な努力はしない	自分がちやんと一つの区切りをつけながら、それぞれ行動している時。
43	捲土重来	部活でなやんだとき
44	感謝の気持ち	挫折しそうになつたりしたときや試合などで負けた後
45	切磋琢磨。悲み	いつも支えてくれている人達についても力をもらっているから感謝の気持ちやそれを伝える事でその人達も力をもらってほしい。
46	意外となんとかなる	悩みを抱えたり、人間関係に疲れた時に、力になってくれます。
47	どこへ行ったかよ	ミスしてしまつたとき
48	ONとOFFの切り替えをしっかりする。	今、現在
49	今日もいい日だ。	動くときは動く、休むときは休むというところが足りていないと意識できなかつたけれど、この言葉を聞いてからは切り替えに意識がいくようになった。
50	やっとおいで無駄な勉強は一つもない。	つらい事があつてもそれをのりこえる気持ち持っていれば心の支えになる。
51	子どもの人生は自分で決める！親が決めるものじゃない。	自分には必要ないと思えた勉強でもこなすことができる。
52	背水の陣。天衣無縫	自分で決められなくなつた時
53	運命とは眠れる奴隷である。それを解き放つことが勝利である。	自分からもう後と戻りができなくなつて前に進まなければいけないときに思い出す。
54	ありがたう。	色んな出来事に負けそうになったり、くじけそうになったりしたときに、あきらめると言われているように思う。
55	吾輩として動かさざる者は未だこれ有らざるなり。志を立ててもって万事の願となす。	人に感謝する時
56	ありがたう	あらゆる場面で、自分の行動を実行する時
57	果報は寝て待て	いつも
58	人のふり見て我がふり直せ。気付き、考え、行動す	予想外のことが起こつて何をしたらいいか考える時や何をすべきか考える時
59	誰かに必要とされることは誰かの希望になることですよ	しんどい時
60	気が済むまでやる	諦めようとしたとき等
61	失敗なくして成功はない。本物を知らなければ空想的な作品は作れない。	迷つたときや嫌になつたとき諦めそうになったとき、この言葉で決断する勇気をもたらつたり、もう一度頑張ろうと思つたりする。
62	誰かに必要とされることは誰かの希望になることですよ	何か挑戦するとき作品(課題)を制作するとき
63	風林火山。人事を尽くして天命を待つ	バイトの時
64	急いでは事を仕損ずる	あわててしまつたり急いでいるとき
65	少年よ大志を抱け	自分が目標を失つた時、目標が達成した時など。
66	世に平穩のあらんことを	
67	仲間を大切にしないやつはそれ以上のクズだ	忍ばにんまが絶対だが仲間を大切にしているということ、自分も仲間を大切にしようと思つた。
68	おはよう	朝のあいさつ
69	ありがたう	感謝を伝える時
70	仕事にもあきらめずに取り組みは必ず報われる。	あきらめそうになつた時
71	一石二鳥	ラッキー
72	偉時間	
73	諦めるな一度諦めたらそれが習慣となる。諦めたらそこからそこで試合終了だよ	諦めそうな時
74	思考は現実化する。0から1への距離は1から千への距離より遠い	常に生活するにあたつて力になっている。
75	男気。まず考えよう	アクションをおこすときに一度止まつて考えるようになった。
76	人生楽しんでたものがち	たのしくないときやつらいときにたのしめばつらくなくなる。

77	負けるが勝ち	
78	すみません	リダは社員さんに怒っていた。そのあと社員さんは私に怒っていた。私も調子悪かった。次の社員さんはすみませんと言った。私は謝し仕事をしました。
79	勇往邁進	壁にぶつかったとき
80	無駄だと思つた事が無駄	失敗した時
81	Thank you! ありがとう	
82	なんとかなる	絶望的な時にでも頑張りたいとき
83	バレなきや犯罪じゃないんですよ	ネタとして
84	落ち着いて行動する。迷ったら立ち止まる。	電車を乗り換える際、番線の間違えないようにするために落ち着かせる
85	努力は必ず報われる	挫けそうになつた時
86	いつも前向きに	なにかに負けそうなとき
87	常在戦場	一人で何かしなければいけない時
88	自分は自分	続けることが自信になっている。
89	継続は力なり	人とのコミュニケーションをとるときの影響をよくする。
90	あいさつは必ずする	勉強する時など何かに挑む時
91	いそがない、あせらない、でもあきらめない	常に考へてます
92	あきらめない	何かにチャレンジする時
93	直感	何もかもがいやになつた時
94	人は常に夢の一步手前。昨日不可能だったことは今日可能になる。	努力をつみかさねれば、それは大きな力になる事を入試でかんじた。
95	未来に絶望なんぞするな。俺達はまだまだ何も成し遂げていないじゃないか。	何もしていないとき
96	ちりもつもれば山となる	答に迷つたとき
97	何も言えない。働かざるものくうべからず。	目標を達成するため
98	自分の考えで動け	特になし
99	自分を輝かせるには努力しかない	バイトや課題など
100	一期一会	
101	やると決めたら最後までやれ	小さいことでも人に感謝するとき
102	百聞は一見にしかず	辛い時
103	ありがとう	全部
104	人間性について絶望してはいけません。なぜなら私たちは人間なのでからです	何かを頑張るとき
105	人生は退屈すれば長いが充実すれば短い	スポーツ
106	人事を尽くして天命を待つ	勉強をしている時
107	努力に勝る天才なし	やらなければならない時
108	今日からやらなきゃ明日は無理だよ	大学レベルの資格やいろいろな場面で学力証明され信用を得ることができた。
109	賞悟	物事をあきらめそうになったり、くじけそうになつたりしたとき。
110	簡単なものほど大切にしろ。微積分は真切らない。	ひとのためになにかをした時に……
111	賞悟とは自分で切り開いていくものだ。	感謝の気持ちを持って相手もまた自分の事をしてくれてお互いいいきもちにな。
112	ありがとう	頼まれることを適当に片付けようとしているときに思い出している。
113	感謝の気持ち	苦しい時
114	誠心誠意	前向きになる
115	笑う門には福来る。一生懸命	
116	下ばかり見ていると上ばかり見えても上ばかり見えてもあふふない。前を見て歩こうよ。	

117	努力しろ	運動 勉強
118	自分を鍛えろ。切磋琢磨	挫折しそうになった時
119	急いで仕事は仕損ずる	おちつきたいとき
120	A HAPPY DAY!! 隣人を自分のように愛しなさい。	日常生活で常に役立っています。人と接する時など
121	ピンチはチャンス。チャンスは積極的に	自分がピンチな状態にいる時
122	少年よ大志を抱け	自分が目標を達成した時に、また、考えさせられる言葉。
123	人のふり見てわがふりなおせ	毎日
124	人の振り見て我が振り直せ	他人で気に入らない所があった場合自分を直させる。
125	周りに起きていることは自分が引き起こしている、それがわかりやすく教面にしている	変化が欲しい時

(注)

- (1) [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/idea/index.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/idea/index.htm)
- (2) 教育課程とは、「学校教育の目的や目標を達成するために、教育の内容を生徒の心身の発達に応じ、授業時数との関連において総合的に組織した学校の教育計画である。」\* つまり、その学校でどんな教科科目を学び、その科目の単位数やどの学年で学ぶかなどを決めている、学習内容を示すメニューである。学習指導要領に基づいて作成され、学級ごとの時間割作成の根拠となっている。教育課程は、縦方向に教科・科目名、横方向に学年を並べた教育課程表として学校要覧の中に掲載されている。
- \* 高等学校学習指導要領解説 総則編 平成21年11月 文部科学省 P8
- (3) [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/idea/1304372.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/idea/1304372.htm)
- (4) 中央教育審議会
- 文部科学省に設置される審議会である。法的には国家行政組織法第8条に設置根拠を求めることができ、中央教育審議会令及び文部科学省組織令で、文部科学省に中央教育審議会を置くことが定められている。その任務は、「文部大臣\*の諮問に応じて教育に関する基本的な制度その他教育、学術、又は文化に関する基本的な重要施策について調査審議し、及びこれらの事項に関して文部大臣に建議する。」\*\* ものである。
- 学習指導要領との関連でいえば、文部科学大臣が中央教育審議会に学習指導要領の改訂について諮問をすると、中央教育審議会はそれに関して一定期間審議し、その結果を答申という形で文部科学大臣に提出する。それが中央教育審議会答申である。答申には必ず従わなければならないという法的根拠はないが、現実的にはそれを基に新しい学習指導要領が作られていく。現行の学習指導要領の理念となっている生きる力は、上述したように1996年7月の答申「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について（第一次答申）」で提案された理念である。
- \* 1996年当時の名称。現在は、文部科学大臣である。
- \*\* 「中央教育審議会について」（1996年7月中央教育審議会答申「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について（第一次答申）」より）
- (5) 1996年7月中央教育審議会答申「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について（第一次答申）」
- (6) 高等学校学習指導要領解説 総則編 平成21年11月 文部科学省 P3
- (7) 「(4)道徳教育の充実」（2008年1月中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）」より）
- (8) 中学校学習指導要領解説 道徳編 平成20年9月 文部科学省 P6